

10月号のストーリーテラーは、
「月曜日が待ち遠しい“Come on Monday”な
世の中を創る」という想いで(株)カモマンを
設立した宮原うららさんです。
連載の初回は、『リーチャー・プログラム』を
立ち上げるに至ったそもそものきっかけに
ついて語っていただきます。

こんにちは、カモマンの宮原です。

私は、新卒から5年間、民間企業に勤め、日
本橋のまちづくりと新規事業開発を担当してい
ました。老舗商店の女将、建築業者の親方、観
光客をもてなすホテルマン。仕事を通して様々
な方と出会い、そのたびにイキイキと働く大人
のカッコよさに感銘を受けました。

同時に、これだけ多様な生き方が世の中には
存在するのに、教師という特定の職種の人とし
か出会う機会がなかった学校現場に違和感を
覚えるようになりました。子どもの頃にもっと
様々な価値観にふれることができれば、もっと
社会を身近に感じることができれば、子どもた
ちは付け焼き刃の進路選択ではなく、自分の人
生に真剣に向き合うことができるのではない
か。教師の皆様と共に社会全体で次世代を育て
る仕組みを構築することで、子どもたちが期待
や希望を抱いて飛び込める世の中になるのでは
ないか——と。それから私は、教育業界への転
身を決意。かつて勤めた塾の事業では都内の私
立高校に常駐し、教務担当として生徒や教職員
と接しました。そこで強く感じたのは、“目の
前の大人が本気で向き合えば、生徒の心に火を
灯すことができる”ということです。

将来の夢をたずねた際に「そんなことを自分

共創 Storys

メーカー、クリエイター、プロモーターなど
様々なタイプのプロフェッショナルが協働し
これまでにない“アイデア”をかたちにした
注目の共創トピックをご紹介します！



に聞いてきた人は初めて」と返ってきた生徒の
言葉を、私は今でも鮮明に覚えています。その
生徒は基礎学力に課題を抱えていましたが、大
好きな鉄道の知識は豊富でした。そこで、専門
学校や鉄道関連企業の資料を用意して手渡す
と、国語の文章問題はまったく読み進められ
ない彼が、ほんの15分足らずで目を通し、「こ
こに行きたい」といつてきたのです。

以来、毎日放課後に勉強してきた彼は、当時
危ぶまれていた進級を難なくクリア。こうした
生徒が多数いるなかで、大切なのは勉強の先
にある“何か”を生徒と一緒に探すこと、その“何
か”を探す手伝いは、教員免許の有無に関係
なく、生徒と本気で向き合うことができる大人
なら誰もが力になれると実感しました。

そしてこの経験が、生徒、教職員、企業人が
win-winの関係になる『リーチャー・プログラ
ム』につながっていくのです。(11月号に続く)

『リーチャー・プログラム』は、
学校の課題解決と企業の人
材育成を組み合わせ(株)
カモマンの独自プログラム。
企業人が学校現場に赴
き、教職員と協働すること
で新たな価値創造を目指す。
その名称には、社会のLeader
(リーダー)が、学校でTeacher
(ティーチャー)と協働するこ
とで、双方にとってResearch
(マジックハンド)のような機
能を果たしてほしいという意
味が込められている。

<https://www.camoman.net/>

episode 01

学校の課題解決 × 企業の人材育成

『リーチャー・プログラム』

Storyteller

(株)カモマン 代表取締役 /
NPO法人Teach for Japan

宮原うららさん

11月号もストーリーテラーは、
「月曜日が待ち遠しい“Come on Monday”な
世の中を創る」という想いで(株)カモマンを
設立した宮原うららさんです。
企業人が学校に越境する
『リーチャー・プログラム』ついて
語っていただく、連載の2回目です。

こんにちは、カモマンの宮原です。前回の
Neighbor10月号では、私が社会に出て初めて
実感した“大人”のカッコよさ、そして、常駐し
た私立高校での直接の関わりを通して学んだ
“子ども”の可能性についてお話ししました。

そうした原体験から、学校と社会を“ヒト”
でつなぐことを模索するようになった私は、
その後、認定特定非営利活動法人Teach For
Japan(以下TFJ)に職員として参画。TFJは、
団体の選考・研修を通過した人材を公立学校に
“教員”として2年間送り出す『フェロシップ・
プログラム』を運営し、教員免許状を有してい
ない方でも、文部科学省が推進する免許制度の
活用によって、一般の教員と同様の職務を
まっとうすることができます。教員免許がない
ことで学校と関わる機会を失っていた大人、そ
してその先にいる子どもたちに新しい可能性を
創出する素晴らしい取り組みだと考え、現在も
活動を継続しています。

同時に、企業の人材が中長期的に学校に越境
する『リーチャー・プログラム』を自身で立ち上
げました。狙いは主に三つです。一つは、TFJ
のフェロシップ・プログラムの参加者は公務
員になるため、在籍企業の退職を前提としてい
ますが、企業や組織に所属しながら各々の専門

episode 02

学校の課題解決 × 企業の人材育成

『リーチャー・プログラム』

共創 Storys

メーカー、クリエイター、プロモーターなど
様々なタイプのプロフェッショナルが協働し
これまでにない“アイデア”をかたちにした
注目の共創トピックをご紹介します！



性や能力を活かして学校に関わる仕組みを創
ること。次に、学校に“教員ではない存在”を送
り出し、社会で活躍する人材がそのままの姿で
子どもや教員と接することが、現場の活性化に
つながると考えました。そして最後に、リー
チャー・プログラムを通じて私が目指すのは、
“教育課程に開かれた社会”です。“社会に開か
れた教育課程”の実現は盛んにうたわられていま
すが、私はむしろ“社会”が教育に閉ざされてい
ることに課題を感じています。出前授業など
“企業が学校を支援する”スタンスの取り組みは
少なからず存在しますが、本質的かつ持続的な
効果を生み出すには、企業と学校が相互支援の
関係にあることが不可欠です。そこで、企業の人
材育成と学校の課題解決を掛け合わせたリー
チャー・プログラムの運営を始めました。

今回は、プログラムの具体的な取り組みにつ
いてお話ししたいと思います。(12月号に続く)

『リーチャー・プログラム』は、
学校の課題解決と企業の人
材育成を組み合わせた(株)
カモマンの独自プログラム。
企業人が学校現場に越境し、
教職員と協働することで
新たな価値創造を目指す。
その名称には、社会のLeader
(リーダー)が、学校でTeacher
(ティーチャー)と協働するこ
とで、双方にとってTeacher
(マジックハンド)のような機
能を果たしてほしいという意
味が込められている。

<https://www.camomanet/>

Storyteller

(株)カモマン 代表取締役 /
認定特定非営利活動法人 Teach For Japan

宮原うららさん

12月号もストーリーテラーは、「月曜日が待ち遠しい“Come on Monday”な世の中を創る」という想いで(株)カモマンを設立した宮原うららさんです。同社が推進する『リーチャー』という役割と新たな展開について語っていただく連載の最終回です。

こんにちは、カモマンの宮原です。突然ですが、皆さんの思い浮かべる“学校”には誰がいるでしょうか？ 多くの方が先生と生徒の存在を思い浮かべたと思います。ですが、社会にはこれだけ多様な生き方があふれているのに、社会に出るまでの準備期間である“学校”には先生と生徒という画一的な役割しか存在しない、そんな当たり前ではたしてよいのでしょうか？

私たちは、TEACHERと協働する社会のLEADER=『リーチャー』という役割を普及するため、二つの事業を展開しています。

まず一つ目は、企業人の学校インターンシップ『リーチャー・プログラム』です。公共性が高く、身近な異文化である学校は、企業人の実践的な能力を育む越境学習の場として最適です。

私立高校×大手メーカーの事例では、社会課題の解決に向けた勉強会を1学期間にわたって企業人が実施しました。社会の第一線で活躍する企業人を前に、生徒から統々と事業構想が生まれ、海外との協議にまで発展。学びが社会とつながった瞬間でした。企業人も、「立ち振る舞いや伝え方・聴き方など、たくさんの気づきを得ることができた。また、一緒に学びを深めることがとても楽しい！」と高評価でした。こうした学校と企業のwin-winの実績が着実に積

episode 03

学校の課題解決 × 企業の人材育成

『リーチャー・プログラム』

共創 Storys

メーカー、クリエイター、プロモーターなど様々なタイプのプロフェッショナルが協働し、これまでにない“アイデア”をかたちにした注目の共創トピックをご紹介します！



み重なってきており、今後ていねいに取り組みを広げていきたいと考えています。

並行して、日本全国の小中高校で子どもたちが多様で魅力的な人材と出会う機会を創出するために、教職員と人材の無料プラットフォーム『リーチャー・ベース』の運営も開始しました。アスリートを体育の授業に招いたり、駐在員に英語の授業でリモートインタビューしたり、幅広い分野の人材とのマッチングを支援します。これまで一般人が学校教育に関わる道は確立されていませんでしたが、社会貢献や副業兼業の機会を探している人材側のニーズにも応えられると考えています。法人・団体でCSR活動の一貫としてご利用いただくことも可能です。

子どもも、大人も、「カモン、マンデー！」と思える世の中に向けて、挑戦はまだまだ続きます。皆さんもぜひ、リーチャーとなって活動を応援いただけたら幸いです！（了）

『リーチャー・プログラム』は、学校の課題解決と企業の人材育成を組み合わせた(株)カモマンの独自プログラム。企業人が学校現場に越境し、教職員と協働することで新たな価値創造を目指す。その名称には、社会のLeader(リーダー)が、学校でTeacher(ティーチャー)と協働することで、双方にとってTeacher(マジックハンド)のような機能を果たしてほしいという意味が込められている。

<https://www.camoman.net/>

Storyteller

(株)カモマン 代表取締役 / 認定特定非営利活動法人Teach For Japan 宮原うららさん